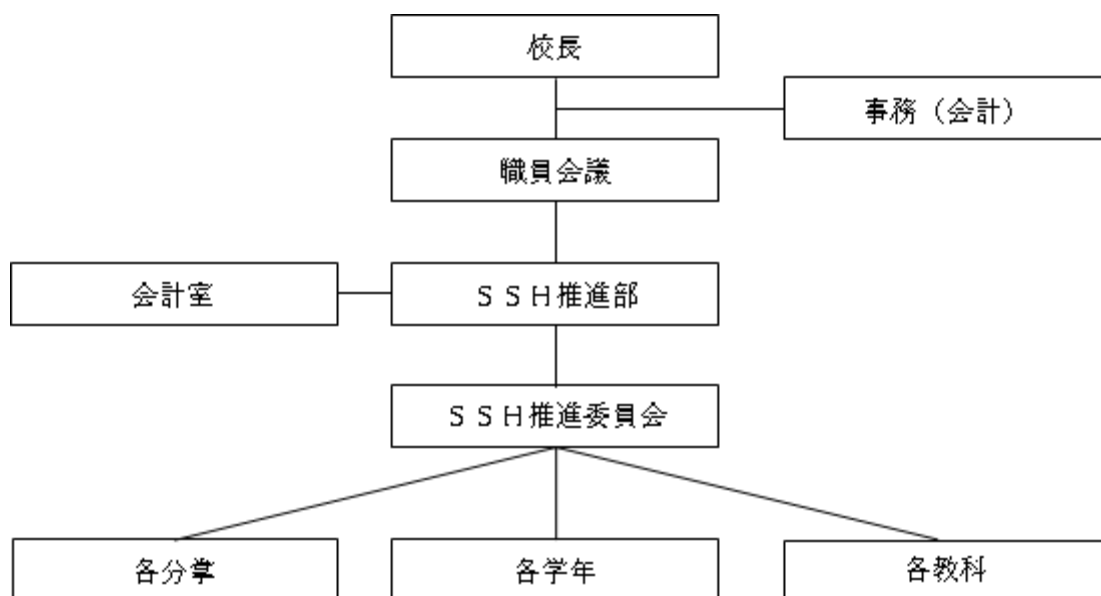


⑥校内におけるSSHの組織的推進体制

(1)「SSH推進部」及び「SSH推進委員会」の設置

分掌として新たに「SSH推進部」を設置し、事業全体の計画・立案及び運営を行う。また、全教職員の共通理解のもとで事業を推進することから各分掌・学年・教科から人選し、「SSH推進委員会」を組織する。「SSH推進委員会」は「SSH推進部」と各組織との連絡調整を行うことで本研究の円滑な運営を行う。

(2) 校内のSSH研究に関わる組織図



(3) 実際の運営に関して

・SSH推進部会は不定期ではあるが、1月末現在で30回、SSH推進委員会は8回開催した。SSH委員会は、SSH推進部員(3名)以外には教務部長・進路指導部長・1学年主任を含め、各教科から1名となるように調整し、合計13名で運営した。

・SSHの各事業はSSH推進部から1学年に原案を提示し、必要に応じてSSH推進委員会で承認を得た。事業の実施後は1学年などでの反省を基に、速やかに次年度計画に盛り込んだ。また、探究活動(「SS探究基礎」)の実施にあたっては、PDCAサイクルを意識し、実施主体である1学年担任団との連携を密にしてコロナの影響のある中でも臨機応変に対応できた。計画が大幅に変更される場面もあったが、1学年教員団の協力により滞りなく事業を実施できた。

・当初、SSH委員会は人数の少ないSSH推進部の動きを補完する組織と考えていたが、教科によってはSSH事業そのものが見えにくい部分もあり、全体を俯瞰する「承認機関」的な位置づけとなった。次年度は「SS特講」の中に、STEAM教育の視点も取り入れ、全教科で取り組める内容を工夫したい。

・会計管理については、SSH会計支援員の協力により、スムーズに予算執行ができた。